

## モニタリング項目の整理について

## 1. 整理の目的

現在の評価シートは、記載されているデータ（調査結果）の量が膨大であり、また、内容がわかりにくいため、誰が見ても理解できるように、モニタリング項目の整理を行う。その際、以下の3つを考慮し整理する。

- ・わかりやすく評価シートの内容を伝えること
- ・モニタリングの結果判明した変化をわかりやすく表わすこと
- ・変化を判断できる段階的な分類ができるか検討すること
- ・第3期海域管理計画に沿った整理を行うこと

## 2. 整理の方法

## (1) 長期モニタリング項目評価調書へ一本化（資料 3-2,3-3 参照）

- ・長期モニタリング計画評価調書と海域管理計画モニタリング項目評価シートをそれぞれ作成するのではなく、長期モニタリング計画評価調書へと一本化する。
- ・評価調書は、①海洋環境、②魚介類、③海棲哺乳類、④鳥類、⑤地域社会 5 つに分類し、関連する長期モニタリング項目をそれぞれに割り振る。
- ・各分類の表紙を作成し、分類評価を記載する。分類評価には、分類内のモニタリング項目を関連づけた評価（分類全体の評価）を記載する。
- ・海域 WG 担当分全体の表紙も作成し、全体の総合評価を記載する。
- ・各モニタリング項目の評価は通常どおり行う。現在使用している長期モニタリング計画評価調書を用いる。
- ・第3期海域管理計画に沿ったものとするために、スルメイカ、シャチ、地域社会を新たに評価調書へ追加する。

## (2) 評価シートへ記載するデータ（調査結果）を選定（資料 3-4）

- ・評価シートの内容を明瞭にするために、記載するデータを選定し、また、現在記載しているグラフ等をよりわかりやすいものに手直しする。
- ・評価シートに記載するデータは、現在長期モニタリング計画評価調書へ記載しているデータや、事務局（環境省、北海道等）が実施している調査のデータを予定している。

## (3) 記載しないデータ（調査結果）については資料集へまとめる（資料 3-4）

- ・新たに資料集を作成し、データを参照できるようにまとめる。
- ・データの分類については、評価シートの分類と同様とする。

## 3. 新しい評価シートの使用時期について

今年度（2018 年度）は、1 年間かけてモニタリングの整理を実施することとし、来年度から新しい評価シートを用いることとする。

評価担当者一覧

分類	指標種評価	評価担当者
表紙	総合評価	桜井座長
①海洋環境	分類評価	白岩委員
	水温・水質・クロロフィル a、プランクトンなど	服部委員
	海水	白岩委員
	有害物質	白岩委員
②魚介類	分類評価	桜井座長
	スルメイカ	桜井座長
	サケ類	宮腰委員
	スケトウダラ	中多委員
	生物相	千葉委員
③海棲哺乳類	分類評価	山村委員
	シャチ	小林委員
	ゴマフアザラシ	小林委員
	トド	山村委員
④鳥類	分類評価	綿貫委員
	海鳥類（ケイマフリ、ウミウ、オオセグロカモメ）	綿貫委員
	海ワシ類（オオワシ、オジロワシ）	綿貫委員
⑤地域社会	分類評価	牧野委員・松田委員
	利用の適正化（文化振興、総合的評価）	牧野委員・松田委員
	持続的利用（産業経済、地域社会、生態系サービス）	牧野委員・松田委員